

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300404		
法人名	株式会社ケアブレイズ		
事業所名	なじみ山根 (グループホーム)		
所在地	福島県郡山市山根町12-25		
自己評価作成日	平成25年8月25日	評価結果市町村受理日	平成26年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成25年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自己決定の尊重と主体性のある生活の支援を行っていく。職員処遇に関しては、積極的に研修参加を推し進め人材育成を図る。給与、その他の処遇に関しては個人面談や人事考課の自己評価により各職員の意見を取り入れている。長期就労の事業所となることを目指す。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 開設後1年経過した事業所であるが、法人では市内に複数の介護事業所を展開しており、事業運営及び介護サービス等に対してのバックアップ体制が確立され、利用者、家族はじめ職員の安心にも繋がっている。また、行事等も合同で実施しており利用者間の交流も日常的に行なわれている。
 2 建物の中央には南欧風の中庭があり、併設する事業所との共有空間として、利用者同士の交流の場となっている。
 3 法人では職員研修に力を入れており、資格取得の支援制度もあり職員の意識高揚に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常時目のつく所へ事業所理念を掲示。又、ミーティング等で確認し、共有している。利用者が自分らしく暮らしていけるよう個別対応を基本とし、支援している。	事業所では利用者が「地域の中で自分らしく暮らせるように」を基本理念にうたい、さらに「行動指針」を策定して、事務所に掲示し全職員が共有して利用者本位のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加している。年に一回の総会に出席し、交流を深めたり、夏祭りには、会長他、近隣の方数名だが参加頂いた。	町内会に加入し、地域の行事の把握に努めている。開設1年目であり地域の行事にはあまり参加できずにいたが、現在地域行事に参加するよう計画している。ボランティアとしてフォークソングや南京玉簾・琴、日本舞踊・カラオケなどを受け入れ交流しており、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長や民生員の方々の協力を得ながら認知症講座や事業所の取り組みを発信できる場を作ろうと検討中である。又、近隣の学校に関しても今後働きかけをし、多様な交流に繋がりたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回定期的に開催。事業所の状況を説明し、意見を頂戴している。その後、ミーティング等で検討し、サービス向上に生かしている。	運営推進委員は地区長や福祉関係者等で構成され、定期的に開催されており、内容は事業所の状況報告はじめ地域の高齢者の状況等多岐にわたっている。各委員から様々な意見や提言があり、事業運営やサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村へは計画作成担当者を中心に実情を密に報告。協力関係を構築している。又、地域包括支援センターとも深い関わりを構築出来ている。	開設時から市担当者とは事業所運営や利用者への対応などについて常に協議し、協力関係を築いている。また、介護相談員の受入もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	経営理念に基づき、事業所としても身体拘束をしないように研修の機会を設け、日々実践している。施錠に関しては、特に意識し、業務を行っている。	「身体拘束のないケアをめざして」内部研修を行い全職員が共有している。「言葉による拘束」も職員で注意しあい、日々のケアで実践している。日中玄関の施錠はなく、毎日職員が交代でフロントリーダーを担当し、利用者の外出や行動を見守りて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を実施し、虐待に関する知識を高め、事業所内では経営理念の下、絶対に起こさないように指導し、利用者宅等の場合は事業所内の意見を参考にし、地域包括支援センターに相談するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度社内研修を実施し、理解に勤めている。又、ケースに応じ、提言できるように環境を整備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相手の立場に立って、不安に感じていることや料金について、又、何を知りたいのかということを重点的に説明し、納得されたかどうかを確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営上、担当制を導入し、利用者や家族が言い易い環境を整備している。又、ご家族の面会時等にも直接、要望等を吸い上げている。	利用者の要望等は日々のケアの中で把握している。家族の意見等は面会時や受診後の連絡等を通して把握しており、出された意見等は全体ミーティング等で検討し事業所運営に反映させている。また、事業所の行事や家族の食事会等でも意向の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者等が常時現場に関わる事で、スタッフとの会話も多く、お互いに言い易い環境が出来ている。更に年に二回程の個人面談を設け職員の処遇等に反映させている。	職員ミーティング等では常に職員と意見交換をしている。さらに年2回の「個人面談」を通して職員の意向や要望の把握に努めており、事業所運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に応じた勤務条件を整備。又、勤務状況や実績、自己評価も含めた中で給与を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一回の社内研修を行い、社外研修についても積極的に参加することを促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	又、なじみ他事業所との人事交流を行ったり、市内の同業他社に働きかけ、勉強会を開催する等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に必ず本人と面会し、本人から直接主訴や要望をよく聴き、不安を少しでも解消して安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前から本人の状態と一緒に確認しながら、家族の不安や要望にも耳を傾け、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況把握を行い、本人とご家族の要望や今困っていることを聴き、支援内容を提示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所のコンセプトとして、家庭と同じ環境の提案という観点から家族同様の関係作りを構築するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心とし、情報を共有しあいながら定期的に状況把握に努め、共に支えあう信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・親戚・知人・友人等が気軽に訪問出来る環境作りを心がけ、個室を提供することもある。	友人・知人等の面会があり、これまでのなじみの関係が継続できるよう支援している。訪問理美容師を受け入れており、入居後の新しい馴染みの関係もできてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の検討は常時行っている。利用者同士、良い関係が出来るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、随時相談を受け、支援できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に家族の下へ訪問し、意見交換を行っている。又、日常の会話の中で利用者のニーズを引き出すよう心がけている。カンファレンスを開催することで情報収集に努めている。	日常のケアの中で散歩・入浴・トイレ誘導時等での些細な会話や仕草からも利用者の意向把握に努めている。利用者に対して担当制度を導入しており、定期(月例)的に家族のもとを訪問し意見交換をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当制を導入し、まずは担当者がその方の全てを把握するようにしている。その担当者からスタッフへ情報が発信され、足りない部分は他のスタッフから情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その担当者や計画作成担当者が日常の様子観察を十分行い、些細な変化も見逃さないように努めている。カンファレンス討議も反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まず、本人から要望を聞き、その後、家族や関係者の意見を聴取。計画作成担当者やその担当者を交えながら話し合い、ニーズに即した課題を導き出し、自宅と事業所を行き来することでのメリットを考慮することで本人本位の介護計画を作成している。	利用者の現状把握を十分行い、利用者、家族の意見を踏まえて利用者本位の介護計画を作成している。また、日々の個別記録をもとにケースカンファレンスを開催し、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記入している。大きな変化があった場合は、随時家族や職員間で情報共有をしている。又、ミーティング等でケアの見直しを行い、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその時々ニーズにはある程度対応できているが、果たしてその対応が柔軟でサービスの多機能に繋がっているかどうかは疑問。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開所間もないこともあり、地域資源の発掘に努めている。現在まで発掘できた地域資源に関しては、利用者に適宜、良い形で繋げる様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて事業所としても主治医と関わることで関係を築き、本人にとって適切な医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医の受診を支援しており、受診には家族対応を基本としているが、状況によっては職員が同行する場合もある。受診結果は家族と情報の共有をしている。協力医療機関の受診には職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者の体調に異変があった場合は、即、看護職員に報告している。そうすることで、受診を含め必要な処置が適切に行えるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院中は、適宜、訪問し、本人の状態確認や病院関係者との情報交換に努めている。又、退院時、退院後の環境を整える等の支援をしながら関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず、契約時に説明し、その後重度化してきたときには事業所として出来ることを説明し、家族には納得頂いた上で今後の方針について話し合っている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成しており、利用時に家族に十分説明し、同意書を取り交わしている。利用者の状態に変化があった場合には家族と十分話し合い、家族の希望にそって柔軟に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	有事を想定した訓練を定期的に行っている。又、マニュアルを作成し、常時利用できるように設置し、職員にも周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、定期的に避難訓練を実施している。又、夜間を想定した訓練も行っている。以上を数回繰り返すことで、各職員が対応できるようになっている。	消防署立会いの避難訓練は年1回実施しており、事業所独自の避難訓練は併設する事業所と合同で毎月実施している。災害時に近隣の避難者(独居高齢者等)の受け入れについて町内会に申し入れしている。非常時の米・飲料水・缶詰・アルミシート、その他コンロ等を備えている。	防災訓練の際に事業所においてあらゆる災害の初期対応についても事業所全体で検討されることが望まれる。また、年間を通して全職員が避難訓練に参加できるように計画されることが必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経営理念に基づき、事業所としても重要視している。個人の尊厳を大切にすることで個人の意向を引き出せるように心がけている。	全職員が利用者の人権を尊重し、言葉かけ等には十分注意して対応している。トイレ誘導もさりげない声かけを工夫して実践している。研修会を通してプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務優先にならないように各職員に指導している。自己決定を尊重することで本人主体の生活を営んで頂けるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に基づき、個別対応を実施している。その為に本人の意向を担当者を中心に引き出し、思い思いの生活をしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に整容には努めている。地域の理容室に協力要請し、事業所に散髪に来てもらっている。又、ネイルケア等も女性利用者には好評である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者と職員が同じ食卓を囲むことで、楽しい食事の時間の提供に努めている。会話を通じて信頼関係の構築にも繋がっている。	利用者と職員は同じ食卓を囲み、会話をしながら共に食事をとり楽しいひとときを共有している。行事食や外食も多く企画し食事が楽しいものとなるよう努めている。菜園で利用者が育てた新鮮な野菜が食卓に上ることもある。献立表は給食委員が計画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々に合わせた食事量の提供に心がけている。水分制限のある利用者以外は、積極的に声かけし、水分摂取を勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き誘導を行い、本人の力に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意のある利用者には都度トイレ誘導を行い、無い利用者には時間での誘導を行うことで失禁を少なくし、自立へ向けた支援を行っている。	利用者の排泄パターンを把握して、トイレ誘導をしている。リハビリパンツ等の利用者も早めの誘導により、自立した排泄となり、改善された例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録で各利用者の便数を把握することで、日頃変化が無いか観察している。水分摂取と適度な運動を行うことで、便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	湯温や入浴時間等、本人の希望に沿うようにしている。基本的に週に3回の入浴を約束させて頂いているが、拒否の強い方を含め、ほぼ全員、入浴頂いている。入浴の誘導も工夫している。	利用者の希望により入浴できる体制となっており、週3回の入浴支援をしている。入浴拒否者には担当者・話題・時刻等を変え利用者の気分転換を図りながら誘導している。足湯として温泉を楽しんだり、季節風呂として柚子湯・菖蒲湯などを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、昼寝をしたい方には、個室を提供し、ゆっくり休んで頂いている。又、マッサージ器やフットマッサージ器を導入することで足のむくみ解消等に利用頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方箋を預かり、各薬の成分や効能を理解するようにしている。又、誤薬等が無いように、常に服薬頂く時にはスタッフ同士又は本人にも確認し、細心の注意を払うように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑や花の栽培、囲碁・将棋・パズル等の余暇活動にも興味を持って頂きながら、楽しみのある日々を過ごせるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日、外出支援を行っている。ドライブ、散歩等、本人の希望に合わせて、出来るだけ行きたい所に行けるように支援している。	季節や天候にもよるが、事業所としては毎日(グループごとに)外出支援を実践している。屋外のバーベキュー・菜園作り・ドライブ(三春ダム、逢瀬公園等)数多く企画し実践している。近隣の高校生の部活等の見学も利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意を得ながら、大金を所持している場合は基本的に預かるようにしているが、良識の範囲内で本人に任せている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に電話があった場合は、取り次ぐようにしている。手紙のやり取りに関してはあまり勧めていないのが現状。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	第二の我が家として過ごして頂けるように、落ち着いて安心感のある住空間の提供に努めている。花を飾る事で季節感を感じて頂けるように努力している。	建物すべてが平屋であり、多くの掃き出し窓が避難口となっており、災害時には有効である。共用空間は食堂エリアのほか、ソファコーナー・和室コーナー等があり利用者が自由に寛げるよう配慮されている。空調も適切に配慮されており、壁には利用者の作品等が飾られ落ち着いた雰囲気である。小規模に隣接している「地域交流コーナー」もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファ等を配置。思い思いの場所でリラックス出来る環境を提供している。前項にも記述したが、マッサージチェアもその一環と考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	居室には、自宅にて使用していた物等を置くなどして、自宅の環境に近づける様に努めている。	居室はベット・エアコン・換気扇・クローゼットが標準整備されている。利用者はテレビやテーブル・イス等を自由に持ち込み居心地の良い環境を確保している。空調が完備した和室と洋室があり、利用者の状況に合わせて使い分けをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場の表記をし、自立した移動をしてもらうようにしている。又、テーブルの配置などを工夫し、安全に生活していただけるように努めている。		